

AQUA CERASILICONE *One*

アクアセラシリコン One

複合形超低汚染 高耐候性アクリルシリコン樹脂塗料

AQUA CERA SILICONE One

粉塵(煤煙・埃・PM2.5)汚れや微生物(カビ・藻)の汚れに対しても
超低汚染機能を安定して発揮します。

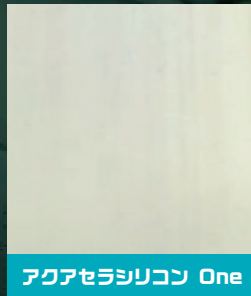


粉塵に対する超低汚染機能(煤煙・埃・PM2.5)

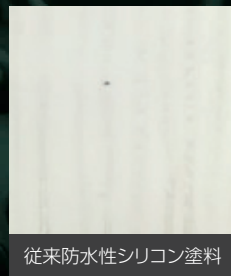
超低汚染技術

1液化により現場条件に左右されず安定した低汚染性が発現。塗装初期から煤煙・埃・PM2.5などを含む雨による汚れが外壁に付着するのを抑止します。

■ 雨筋部汚れの比較



アクアセラシリコン One



従来防水性シリコン塗料



従来溶剤形
低汚染シリコン塗料



微生物に対する超低汚染機能(カビ・藻)

防かび・防藻性能を標準採用

水系強力防カビ・防藻剤を標準配合。外装材としては、今までに無い様々なタイプのカビ・藻に対し優れた効力を発揮します。

■ カビ抵抗性試験結果(MIL法準拠、養生日数:28日)



アクアセラシリコン One



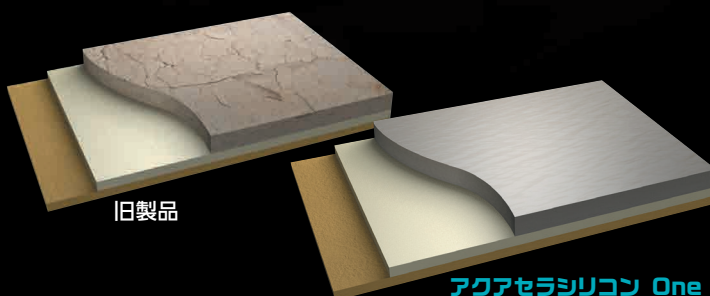
従来防カビ塗料



一般水性塗料

弾性下地へも適用可能

アーマージェル(硬い膜)と高耐久シリコンレジン(柔らかい)とのバランスを適正化し、弾性下地でも適用が可能です。

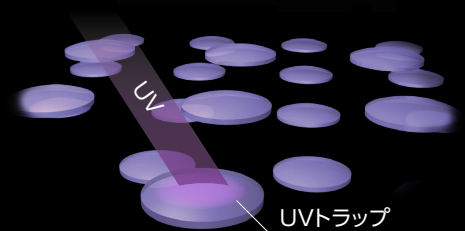


旧製品

アクアセラシリコン One

UVトラップ配合

自動車塗装に用いる技術を用い、経年での退色に影響を及ぼす紫外線を無害化し、高耐久シリコンレジンを守ります。



UVトラップ

アクアセラシリコン Oneの 複合形超低汚染テクノロジー

アーマーシェル

樹脂構造を一から見直し、短時間で超低汚染機能を安定的に発揮させる技術を開発。『アーマーシェル』技術の導入によって、汚れの固着を抑制し、塗装初期から長期に渡り超低汚染機能を発揮。

粉塵に対する 超低汚染テクノロジー



アーマーブリッジ

エマルション粒子の間に『アーマーブリッジ』による架橋構造を導入。アーマーシェルの能力を最大限に引き出し、汚れの固着抑制を飛躍的に向上させることに成功。

水性防カビ成分

細胞機能阻害により生育を抑制。

水性防藻成分

菌の光合成阻害により、防藻抑制成分が光合成を阻害し発育を阻止。

カビ・藻に対する 抑制テクノロジー

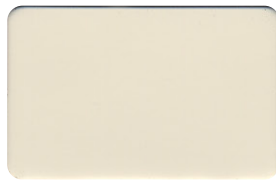


超強力水系防カビ防藻剤

細胞機能阻害によりバクテリア及びカビ60菌種の生育を抑制。防カビ成分ダブル処方で強力に効果を発揮します。



KP-111



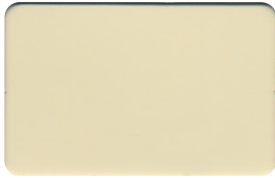
KP-110



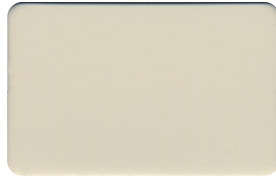
KP-112



KP-223



KP-310



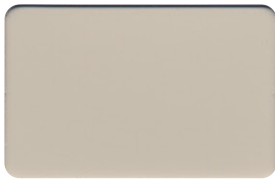
KP-121



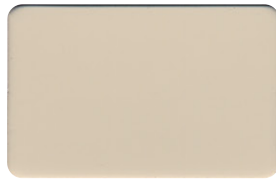
KP-133



KP-221



KP-120



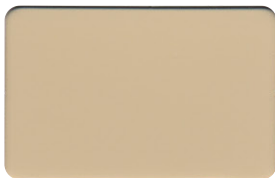
KP-127



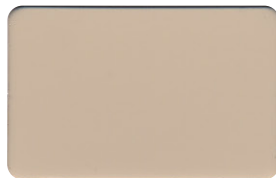
KP-131



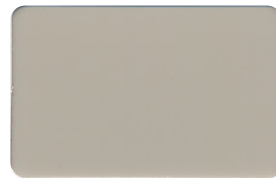
KP-80



KP-337



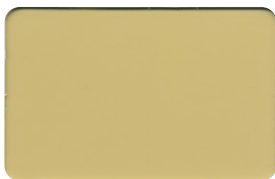
KP-336



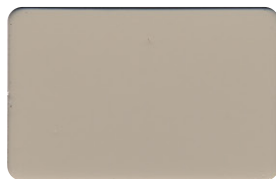
KP-141



KP-247



KP-330



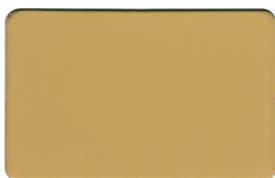
KP-147



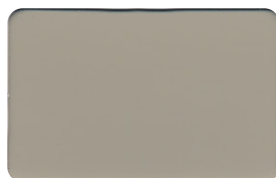
KP-350



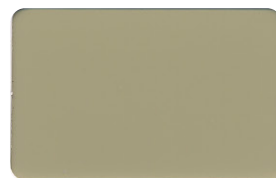
KP-75



KP-347



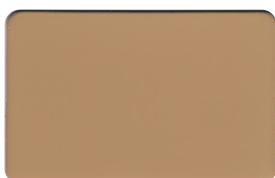
KP-150



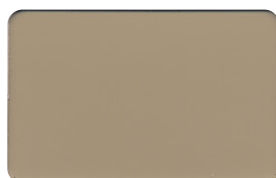
KP-352



KP-70



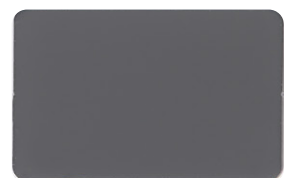
KP-356



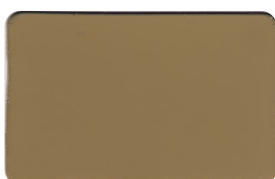
KP-357



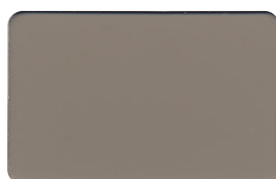
KP-368 ◎



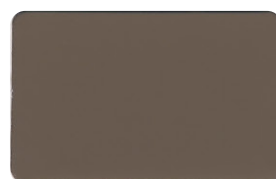
KP-50



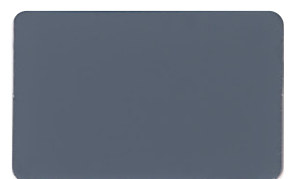
KP-367



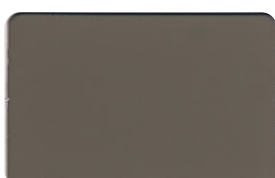
KP-167



KP-376



KP-379 ◎



KP-170



KP-385 ◎



KP-185 ◎

※この色見本は、紙に塗装していますので
 実際の仕上りと多少異なります。
 ※提案色以外でも日本塗料工業会色見本帳
 などの調色も可能です。
 ◎印は、材料費が割高になります。

アクアセラシロン One 標準塗装仕様

- 容 量：15kg、4kg
- 適用下地：コンクリート、モルタル、スレート板、窯業系サイディングボード
- 適用下塗：アレスホルダーZ(16kg)、アレスシリコンラフト(16kg)、エコカチオンシーラー(15kg)、アレスホルダーEPO(16kg)等

■ 微弾性下地仕様

工 程	塗料名・処置・比率(重量%)	所要量(kg/m ²)	塗装間隔(23℃)	塗装方法
素地調整	クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な補修を施す。 劣化塗膜やチョーキング・汚れ等を高圧水性にて除去し、乾燥した清浄な面とする。			
下地調整材	アレスホルダーGII 100 上水 1~10	0.30~1.50	8時間以上7日以内	ローラー
上塗【1回目】	アクアセラシロン One 100 上水 5~10	0.11~0.15	2時間以上7日以内	ローラー
上塗【2回目】	アクアセラシロン One 100 上水 5~10	0.11~0.15	—	ローラー

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態・塗装方法・環境によって増減します。※ALC板への塗装は、下塗の前にアレスエアレスフィラーを全面に塗りつけてください。

■ 弾性下地仕様

工 程	塗料名・処置・比率(重量%)	所要量(kg/m ²)	塗装間隔(23℃)	塗装方法
素地調整	クラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な補修を施す。 劣化塗膜やチョーキング・汚れ等を高圧水性にて除去し、乾燥した清浄な面とする。			
下地調整材	アレス弾性ホルダー防水形 100 上水 1~4	0.50~1.50	8時間以上7日以内	多孔質ローラー
上塗【1回目】	アクアセラシロン One 100 上水 5~10	0.11~0.15	2時間以上7日以内	ローラー
上塗【2回目】	アクアセラシロン One 100 上水 5~10	0.11~0.15	—	ローラー

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態・塗装方法・環境によって増減します。※ALC板への塗装は、下塗の前にアレスエアレスフィラーを全面に塗りつけてください。

■ 窯業系サイディングボード仕様

工 程	塗料名・処置・比率(重量%)	所要量(kg/m ²)	塗装間隔(23℃)	塗装方法
素地調整	欠損部、シーリング材の劣化部等は適切な処置を行う。 劣化塗膜やチョーキング・汚れ等を高圧水性にて除去し、乾燥した清浄な面とする。			
下地調整材	アレス水性エポレジン ベース 100 アレス水性エポレジン 硬化剤 20 上水 1~12	0.13~0.20	16時間以上7日以内	ローラー
上塗【1回目】	アクアセラシロン One 100 上水 5~10	0.11~0.15	2時間以上7日以内	ローラー
上塗【2回目】	アクアセラシロン One 100 上水 5~10	0.11~0.15	—	ローラー

※標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態・塗装方法・環境によって増減します。

施工上の注意事項

安全・衛生に注意し正しく製品をご使用いただくために特に下記の事項を守ってください。

- ①セメント・モルタルやコンクリート面は含水率8%以下、PH10以下になるまで乾燥させてください。
- ②躯体や構造からの漏水がある場合、止水処理を十分行ってください。
- ③躯体含水率が高い場合、断熱機能が十分でない結露の多い建物、換気効率の十分でない建物、漏水箇所止水処理が十分でない場合、居住者の方の生活環境などの違いなどで、塗膜の持つ透湿性能以上の水蒸気量発生の場合は、塗膜がふくれることがあります。
- ④シーリング材の上はワレや汚れが生じることがありますので、塗装は避けてください。やむを得ず塗装される場合は下塗の前に「シープラー」または「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」をご使用ください。
- ⑤気温5℃以下、湿度85%以上、降雨、降雪、強風が予想される場合は塗装をしないでください。
- ⑥旧塗膜の劣化が著しい部分はサンダー、ワイヤーブラシ等で除去し、加圧水洗後十分乾燥させてから塗装をしてください。
- ⑦気温0℃以下、40℃以上での保管は避けてください。
- ⑧軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業系サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗に「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」を塗してください。
- ⑨ハケ塗りや補修塗りを行う際、ローラー塗りとの仕上り肌や希釈率の違いによる色差が生じることがありますので、ご注意ください。
- ⑩旧塗膜がスタッコのような大柄模様の場合は各工程の塗料を十分に塗り込んでください。
- ⑪押出成型板・GRC板などはエポキシ樹脂下塗塗料「浸透形シーラー」などを2~3回

に分けて十分塗付してください。

- ⑫弾性スタッコへの塗装はできません。
- ⑬強溶剤形の上塗塗料を塗装した場合、旧塗膜・シーラーの種類によってはちぢみ・シワなどの仕上り不良が生じることがあります。
- ⑭下地補修部へ対しましては、必ずシーラー塗装を行ってください。
- ⑮汚れ、傷などにより補修塗料が必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ⑯艶消し仕上げの場合は建物の構造上、雨掛りの少ない面や結露が生じ易い場合において、塗膜表面に膨れ、白化、曇ムラ、粘着物が発生する恐れがあります。著しい結露が予想される場合は、溶剤系塗料での施工をお勧めします。
- ⑰艶消し仕上げの場合は、降雨や結露等により塗膜表面に粘着物が発生した際には、水道水で十分に洗浄または水拭きにより除去した後、十分乾燥させてください。
- ⑱艶消し仕上げの場合は塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛かった場合や、低温、高湿度、通風のない環境では、膨れ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は強制換気などで乾燥を促進させてください。
- ⑲ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ⑳過希釈は隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ㉑補修塗料が必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ㉒防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理してから塗装してください。
- ㉓開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保管し、速やかに使い切ってください。



ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

予防策
取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
本来の目的以外に使用しないこと。
指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。
対応
目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある

対応
場合は、医師の診察を受けること。
吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
保管
指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
廃棄
本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
施工後の安全
本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
北関東信越 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223

東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603

中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご諒承ください。

(20年03月04日PNA) カタログNo.854
頒布価格 1,000円(税別)